２０２２年度

環境活動レポート

牧迫建設　株式会社

活動期間　２０２１年１０月～２０２２年９月

エコアクション21

認証番号0002924

Eco Action Report

発行：2022年10月15日
改訂：2023年　8月25日

目　次

1. 環境方針　3

2. 事業概要　4

（１）　事業者名及び代表者名
（２）　所在地
（３）　環境管理統括責任者氏名及び担当者連絡先
（４）　事業内容（認証・登録の範囲）
（５）　事業の規模（2021年度）
（６）　全社の組織図
（７）　保有機械等

3. 環境管理実施体制　5

4. 2022年度環境目標とその実績　6

5. 2022年度主な環境活動計画　7

6. 2022年度環境活動と次年度取り組み　8

7. 3ヵ年目標（2024～2026年度）　9

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無　１０

9. 2022年度全体の評価と見直し　１０

《環境経営方針》

　牧迫建設株式会社は、鹿児島県を拠点に“快適な住環境を創造”する建設業として、持続可能な社会基盤構築の重要性を認識し、自らの事業活動、施工及びサービスを通して地域社会はもとより、地球環境保全に全社員で取り組みます。またSDGsを推進し持続的社会のために努力します。
　具体的に以下の項目を重点的に活動を展開します

１．環境マネジメントシステムの継続的改善

建設事業に係わる環境影響を認識し、地球環境保全に努めると共に環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります

２．環境法などの順守

建設事業に関わる環境関連の法律、条例及び同意したその他の要求事項をまとめ、毎年定期的に評価するとともにそれらを遵守します

３．公害防止活動

建設現場における騒音・振動の低減、土壌・地下水・河川及び大気の汚染防止、粉じん飛散防止に努めます

４．環境負荷低減及び有益な取り組み

当社の事務所、資材置場、建設現場等における事業活動が影響を及ぼす環境影響の中で、以下の項目を特に重点項目として取り組みます

（１）地球温暖化防止：電力及び燃料使用時の二酸化炭素排出の低減
（２）資源の循環利用：産業廃棄物の３Ｒ（ﾘﾃﾞｭｰｽ・ﾘﾕｰｽ・ﾘｻｲｸﾙ）
（３）水道と排水削減：水道の節水と雨水の利用
（４）環境配慮工事：環境配慮型機材使用と工法の提案
（５）地域ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ：地域清掃とボランティア活動への参加及び支援

これらについて、中期環境目標の設定と環境活動計画を策定し、実行するとともに毎年定期的に評価し、見直します

５．環境方針などの周知

環境方針は全従業員に周知するとともに協力会社に対して理解と協力を求め、方針達成を目指します
また、環境方針は社外に公表します

制定日：２００７年１２月　１日
改定日：２０２２年１０月１５日

牧迫建設株式会社
代表取締役　牧迫英敏

2. 事業概要

（1） 事業者名及び代表者名

牧迫建設株式会社

代表取締役社長　牧迫　英敏

（2） 所在地（認証・登録の範囲）

本　　社	〒890-0021 鹿児島県鹿児島市小野一丁目12番2号	723㎡
小野資材置場	〒890-0022 鹿児島市小野町4786-8	429㎡
犬迫資材置場	〒891-1205 鹿児島市犬迫町7094-2～4	1,100㎡

（3） 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責　任　者：牧迫　俊生

担　当　者：牧迫　則子

連　絡　先：TEL　099-220-7148　　FAX　099-220-7138

Ｅメール　makisakokk@globe.ocn.ne.jp

（4） 事業内容（認証・登録の範囲は建設業のみ）

◎ 建設業許可番号　鹿児島県知事　許可(特-2)　第697号

種類（土木、建築、大工、とび・土工、屋根、鉄筋、舗装、防水、内装仕上、解体工事業）

許可の有効期間　令和3年3月6日から令和８年3月5日まで

◎ 産業廃棄物収集運搬業許可証

許可の年月日　鹿児島県知事許可　第04607035887号

許可の有効期間　令和　2年12月11日から令和　7年12月10日まで

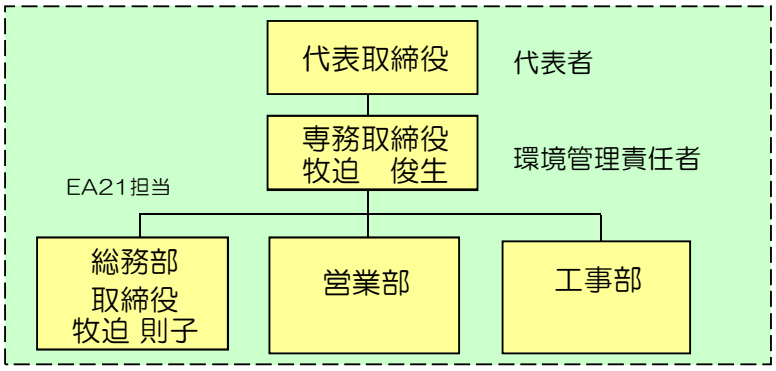
事業範囲（廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラス及び陶磁器くず
コンクリートくず、がれき類、紙くず、木くず、繊維くず）

（5） 事業の規模（2022年度：2021年10月～2022年9月）

完成工事高　　４７９百万円

従業員数　　１１名

（6） 全社の組織図



（7） 保有機械等

・ユニック　４ｔ　　1台　　・軽トラ　　７台

・ユニック　6.5ｔ　1台　　・乗用車　　４台

・ダンプ　　３ｔ　　2台、　４ｔ　3台

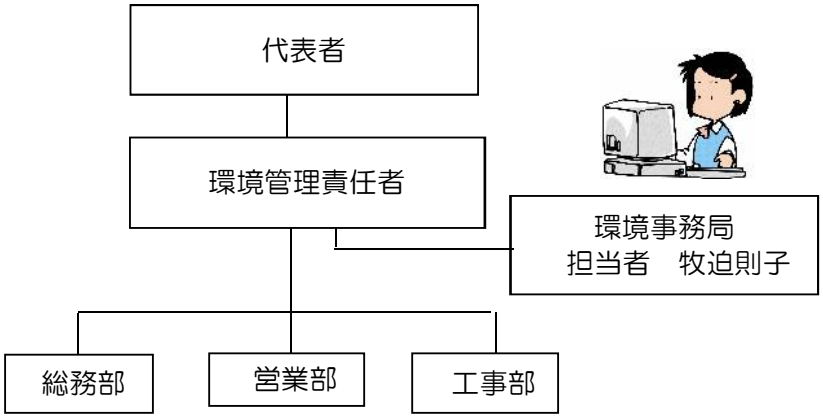
（8） 産業廃棄物受託収集・運搬量(但し下請の自社運搬)

・2022年度（2021年10月～2022年9月）

・570ｔ

3.環境管理実施体制

当社の環境経営システムを推進するための組織と役割は次の通りです。



担 当 者	役 割・責 任・権 限
代表者 （代表取締役）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムに必要な人、設備、費用、時間、技能・技術者を用意 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者 （専務取締役）	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局 （総務部）	・環境管理責任者の補佐 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規等取りまとめ表」の作成 ・「環境関連法規等取りまとめ表」に基づく遵守評価の実施 ・環境目標・環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・従業員に対する教育訓練の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録 ・問題点の発見、是正、予防処置 ・環境活動レポートの作成、公開
各部部長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の環境事務局報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の環境事務局報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 ・環境改善への意見提案や環境問題・異常時の上司への報告

４環境目標とその実績

【過去の主な環境負荷の実績】

項　　目		単 位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
			2017.10～2018.9	2018.10～2019.9	2019.10～2020.9	2020.10～2021.9
電力使用量	購入電力	kWh	7,503	7,260	7,436	7,984
	CO2	kg-CO2	3,819	3,695	3,703	3,800
燃料使用量	ガソリン	ℓ	12,675	11,921	8,959	8,384
	軽油	ℓ	27,420	24,700	14,600	16,527
	CO2	kg-CO2	101,246	92,371	59,037	62,704
CO2排出量合計		kg-CO2	105,065	96,066	62,740	66,504
産業廃棄物ﾘｻｲｸﾙ化（現場）		%	98	99.2	99.3	99.2
水使用量（本社）		m3	28	40	47	50
地域清掃清掃		回	8	7	7	6

※電力のCO_2排出係数は、の日本ガス2019 年度実排出係数0.476 kg-CO2/kWhです

【2022年度の目標と実績】

項　　目		単 位	2020年度	2022年度			
			2019.10～2020.9	2021.10～2022.9			
			基準値	目　標	実　績	増　減	評　価
CO2排出量	電　力 ※	kg-CO2	3,703	3,629 △2%	3,717	+0.4%	×
		kWh	7,436	7,287	7,808		
	燃　料 ｶﾞﾘﾝ・軽油	kg-CO2	59,037	57,856 △2%	64,641	+9.5%	×
		ℓ	23,559	23,087	26144		
環境配慮工事		件	6/12				
		%	50				
産業廃棄物ﾘｻｲｸﾙ率（現場）		t	596	98	655/659	+0.1%	○
		%	99.1		99.2		
水使用量		m3	47.0	46.0	56	+19.1%	×
地域清掃		回	7	6	6	-1回	○

※電力のCO_2排出係数は、の日本ガス2019 年度実排出係数０．476 kg-CO2/kWhです

評価：○達成、×未達成

CO2排出量	kg-CO2	68,358

5．２０２２年度主な環境活動計画

・二酸化炭素排出量の削減

電気使用量の削減

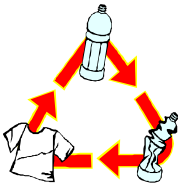
- 同じ室内でも、使用状況により、使用していない照明は消す。
- 自然光を活用できるところは、照明を減らす。
- 外出、昼休み中は、事務所内の照明を切る。
- 外出、昼休み中は、パソコンの電源を切る。
- エアコンの設定温度を夏季28℃、冬季20℃に設定し、ウオームビズ、クールビズを推進する。

燃料の削減

- 自動車燃費向上目標の説明
- アイドリングストップ
- 制限速度･積載量の遵守
- 冷暖房控えめ使用

一般、産業廃棄物の削減

- コピー紙使用量の削減
- 社内LANの活用によりペーパーレス化を図る。
- FAX使用からメールの活用によりペーパーレス化を図る。
- ミスコピーの裏紙利用、両面印刷の推進により使用量を削減する。
- 廃棄物を分別保管しリサイクル可能な物は再生にまわす。
- 混合廃棄物を少なくする為さらに分別処分に努める。



水使用の削減

- 節水に努める。

環境配慮の工事

- 環境配慮型機材使用と工法の提案
- 地域材を活用した、桜島の降灰による日常生活への影響を軽減する鹿児島型長期優良住宅の普及をグループで推進する

地域保全活動

- 地域の清掃活動・ボランティア活動に積極的に参加する。

６．2022年度環境活動と次年度取り組み

2021年10月～2022年9月までの活動の実績評価と次年度の取り組みは次の通りです。

取り組み計画	SDGs	評価と次年度取り組み
電力の削減 ・冷暖房の控えめな使用 （冷房２８℃　暖房２０℃） ・クールビズ・ウォームビズ運動		目標達成ならず コロナ対策の換気、空気清浄、熱中症対策と大変だったが、引き続き夏場での冷房対策は、午前中の使用を控え(扇風機を活用)日中の温度28℃を推進していく。
燃料の削減 ・アイドリングストップ ・制限速度･積載量の遵守 ・冷暖房控え使用		目標達成ならず 工事場所、内容で違ってくるので難しいが、急発進やアイドリングストップ、積載量の厳守などエコドライブを継続して取り組みます。燃費の良い車両の入れ替えは引き続きを図る
産業廃棄物の削減 ・有効利用による処理の軽減 ・分別の徹底による有価物化		目標達成 引き続き混合処分を削減する活動計画を推進し、リサイクル可能なものは分別し、再生化していきます。
節水 ・節水に努める		目標達成ならず 工事用の水使用でかなり目標を上回ってしまった。今後も節水、雨水利用を推進していきます
地域の清掃活動 ・地域清掃活動推進 ・業界団体清掃活動への参加		目標達成 今後も地域の清掃活動やボランティア活動に積極的に参加します。

7．3ヵ年環境目標3年目（2023年度）

項　　目			基準値 実績 2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
			2019．10～2020．9	2020．10～2021．9	2021．10～2022．9	2022．10～2023．9
CO_2排出量削減	電気使用量の削減※		7,436 kWh 3,703 kg-CO_2	7,362 3,666 △1％	7,287 3,629 △2％	7,213 3,592 △3％
	燃料使用量の削減	ガソリン	8,959ℓ	8869	8,779	8,690
		軽油	１４,６００ℓ	14,454	14,308	14,162
		CO_2計	59,037 kg-CO_2	58,446 △1％	57,856 △2％	57,265 △3％
環境配慮工事（配慮工事件数／工事件数）			50%	50%	50%	50%
産業廃棄物のリサイクル化（資源化量/排出量ｔ）			99.1%	98%	98%	98%
水使用量の削減			47.0 m^3	46.5 m^3 △1%	46.0 m^3 △2%	45.5 m^3 △3%
地域清掃活動			７回	6回	6回	6回

※電力のCO_2排出係数は、日本ガス2019年度実排出係数0.476 kg-CO_2/kWhです

８.環境関連法規制等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される施設等
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物
建設リサイクル法	新設工事及び解体改修工事
再生資源利用省令	指定副産物（建設発生土、アスファルト・コンクリート塊の利用）
指定副産物利用促進省令	指定副産物（建設発生土、アスファルト・コンクリート塊の利用）
自動車リサイクル法	自動車
家電リサイクル法	テレビ、冷蔵庫、エアコン

環境関連法規及び条例等への尊守状況について、平成22年４月から違反はありません。
また、行政からの指導、地域住民からの苦情や要望・訴訟等は過去10年間ありません。

９．2022年度全体の評価と見直しの結果

・環境活動の取り組み結果の評価

(1)エコアクション21の取組を始めてから１３年半が経過し、今年は新型コロナウイルスの変異株のまん延防止対策を取りながらも、社内における環境活動の意識は概ね定着しつつあります。

(2)燃料削減では、燃費の良い車輌の入替え等計画的に実施していきますが、遠方の工事が影響し、工事内容で大きく変わるため難しい。

(3)電力使用量については、コロナ対策の換気、空気清浄、熱中症対策に気を配り、冷暖房の控え、クールビズ・ウオームビズ運動を推進していきます。

(4)産廃については混合廃棄物を少なくする為、廃棄物の分別に努め、リサイクル可能な物は資源化にすることによりリサイクル率の向上につながり、埋立処分が削減されています。

(5)雨水利用の貯水タンクを撤去したことも影響した。今後も節水・雨水利用の活動を周知徹底していきたいと思います。貯水タンクは、場所を変えて設置を検討したい。

・今後の取組み

(1)環境システムの構築と従業員への周知徹底は、これまで以上に努力し、推進してまいります。

(2)企業のイメージアップにもつながる地域のボランテイア活動もコロナ感染のまん延防止対策で活動を自粛にとなったが時期が来たら積極的に参加していきます。

(3)自社の緊急事態に向けての方向性を考えていきたいと思います。